

小須戸商工会景況調査報告書

組織番号	21
商工会名	小須戸商工会
報告者名	佐藤 英

1. 調査要領

(1) 調査対象

- ア 対象地区 小須戸商工会地区内小規模事業者
イ 調査企業数 30 事業所 (うち小規模事業者数 30 事業所)
ウ 回答企業数 30 事業所 (うち小規模事業者数 30 事業所)
(回答率 100.0%)

(2) 調査対象期間

- 平成29年7月～平成29年12月
(調査時点 平成29年12月1日)

(3) 調査方法

- 経営指導員等による巡回または窓口によるヒアリング調査

(4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	3	10.0%	3	10.0%
建設業	9	30.0%	9	30.0%
卸・小売業	8	26.7%	8	26.7%
サービス業	10	33.3%	10	33.3%
合計	30	100.0%	30	100.0%

2. 地域内産業全体の景況概要

顧客の高齢化により売上が減少傾向にあると同時に、事業主の高齢化と後継者不在の理由で、店舗や設備投資も進められず、廃業が進んでいる。観光資源である町屋を訪れる観光客は一定数いるものの、地域への経済効果は一部業種にとどまっております。

【後継者の状況】

調査対象の内、8割を超える事業所において後継者が不在であり、廃業を考えている事業主が多いと思われる。

後継者 あり	4事業所	13.3%
後継者 なし	26事業所	86.7%

【売上高】

前年同期比では5割減少となっている。前期比では減少が5割を超えた一方で、3割が増加となった。しかし、今後の見通しでは、不変または減少との回答が9割を超えており、売上の増加は実感できていない。

前年同期比

増加	不変	減少
8	6	16

前期比

増加	不変	減少
9	4	17

今後の見通し

増加	不変	減少
2	16	12

【採算】

前年同期比で悪化が5割を超える中、3割が好転したと回答したものの、前期比では不変または悪化が8割を占めた。今後の見通しは不変との回答が多く、採算が悪化したものも含めると先行きは厳しい。

前年同期比

好転	不変	悪化
10	3	17

前期比

好転	不変	悪化
5	14	11

今後の見通し

好転	不変	悪化
1	20	9

【仕入単価】

不変との回答が9割を占めた。平成31年度は消費税の引き上げが予定されており、仕入単価は注視する必要がある。

前年同期比

上昇	不変	低下
3	27	0

前期比

上昇	不変	低下
3	27	0

今後の見通し

上昇	不変	低下
1	28	1

【販売（客）単価】

不変との回答が7割を超えているが、低下した事業所も見受けられた。今後の見通しも不変が多くなっているが、低調子が続く中での回答であるため、厳しい状況である。

前年同期比

上昇	不変	低下
1	23	6

前期比

上昇	不変	低下
1	25	4

今後の見通し

上昇	不変	低下
1	26	3

【資金繰り】

前年同期比では6割、前期比では5割が悪化との回答であり、資金繰りは悪化の傾向にある。見通しも不変との回答が多く、好転する要素もないため厳しい状況である。

前年同期比

好転	不変	悪化
0	12	18

前期比

好転	不変	悪化
0	15	15

今後の見通し

好転	不変	悪化
0	23	7

【雇用動向】

雇用動向に大きな変動は見られない。売上の傾向を踏まえると、現状維持が続くと思われる。

前年同期比

増加	不変	減少
0	28	2

前期比

増加	不変	減少
0	30	0

今後の見通し

増加	不変	減少
0	30	0

【景況判断】

前年同期比で4割が悪化、前期比で3割が悪化した。見通しは不変との回答が多いものの、低調子が続く中での回答であるため、景気の回復は実感できていない。

前年同期比

好転	不変	悪化
0	17	13

前期比

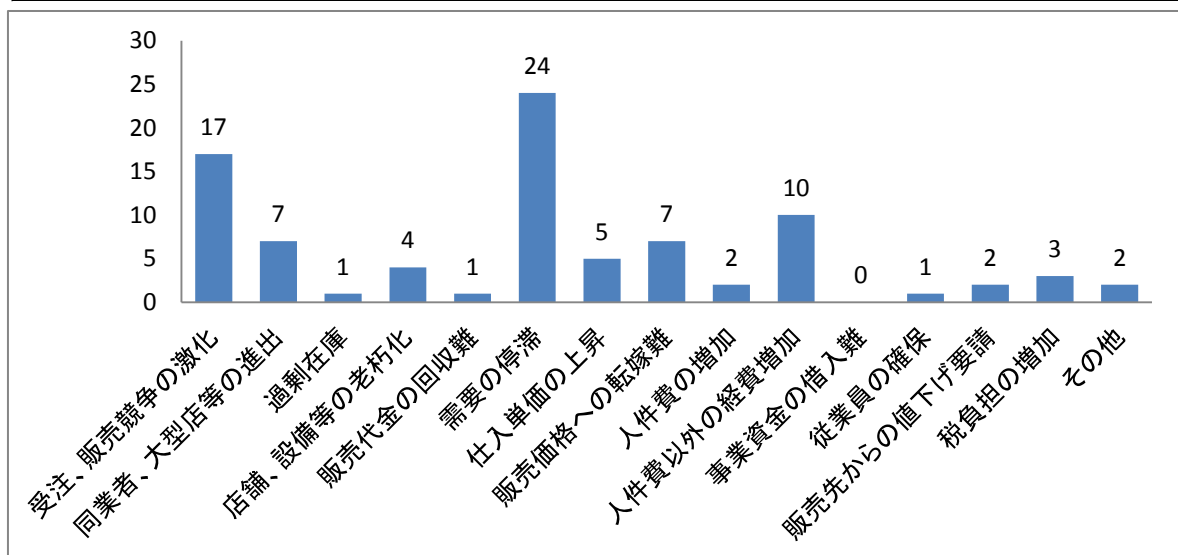
好転	不変	悪化
0	21	9

今後の見通し

好転	不変	悪化
0	20	10

【経営上の問題点】

多い順に、需要の停滞、受注・販売競争の激化、人件費以外の経費増加との回答となった。消費の低迷と同時に競合他社による影響が、売上の伸び悩みの原因となっている。



3. 産業別景況概要

(1) 製造業

製造業においては、仕入単価の上昇と販売価格への転嫁難から、資金繰りの悪化の傾向が見られた。前年同期比で売上と経常利益が好転した事業所もあったものの、販売先からの値下げ要請や取引先の減少も見られ、来期の見通しは不透明である。

(2) 建設業

建築関係業者は地域に新築物件や分譲地があるものの、地元の業者が受注できておらず、大手の下請けやリフォームの依頼が多くなっているため売上が減少傾向にある。
土木関係業者は受注競争が厳しくなっており、公共事業の減少の影響で業績が低迷している。資金繰りも悪化傾向にあり、先行きは厳しい。

(3) 卸・小売業

卸・小売業においては、需要の停滞と同時に同業者や大型店等の進出による影響で売上の減少傾向が見られる。当地区は、隣接する新津地区と白根地区に大きな商業施設があり、小売業への影響が大きい。地区内の顧客は昔からの固定客であり、顧客の高齢化の影響で、売上は減少傾向となっている。卸売業者については、取引額が横ばい又は減少傾向にあり景気の回復は感じられない状況である。

(4) サービス業

地区外からの顧客獲得に成功している事業所もあるが、売上の主体である地区内顧客が高齢化で減少傾向にあるため、売上の増加にはつなげられていない。特に理美容業や飲食業においては売上・利益とも減少しており、需要の停滞と同時に、同業者の進出の影響が大きくなっている。

(様式⑤)

No.	
-----	--

景況調査ヒアリングシート（平成29年度）

調査対象期間 平成29年7月～12月
(調査時点 平成29年12月1日)

商工会名	商工会	担当職員名	
企業の概要	業種	1:製造 2:建設 3:卸・小売業 4:サービス他	
	従業員数	1:0人 2:1人～2人 3:3人～5人 4:6人～20人 5:20人超	
	企業区分	1:小規模事業者 2:小規模事業者以外	
	後継者の有無	1:有 2:無	

(1) 貴社の状況についてお答えください。(該当する番号に○を付してください。)

	前年同期(H28年7～12月) と比較して	前期(H29年1月～6月) と比較して	今期(H29年7～12月)と 比較した来期(H30年1～6月) の見通し
売上	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
採算(経常利益)	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
仕入単価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
販売(客)単価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
資金繰り	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
雇用動向	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
景況判断	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化

(2) 貴社の経営上の問題点(下記より上位3つまでを選び、○を付してください。)

- ①受注、販売競争の激化 ②同業者、大型店等の進出 ③過剰在庫
④店舗、設備等の老朽化 ⑤販売代金の回収難 ⑥需要の停滞
⑦仕入単価の上昇 ⑧販売価格への転嫁難 ⑨人件費の増加
⑩人件費以外の経費増加 ⑪事業資金の借入難 ⑫従業員の確保
⑬販売先からの値下げ要請 ⑭税負担の増加
⑮その他()

(3) 今後の事業・経営において強化したい点(設備投資・販路開拓等)

--